

安定期COPD患者におけるCOPD Assessment test, 咳関連QOL, 胃食道逆流症状の関連

小川喜子¹⁾, 美甘真史¹⁾, 櫻井章吾¹⁾, 宍戸雄一郎¹⁾, 秋田剛史¹⁾, 森田悟¹⁾,
朝田和博¹⁾, 藤井雅人¹⁾, 白井敏博¹⁾, 須田隆文²⁾, 千田金吾²⁾
静岡県立総合病院呼吸器内科¹⁾, 浜松医科大学附属病院呼吸器内科²⁾

【背景と目的】慢性の咳はCOPDの最初の症状であることが多いといわれ、間欠的または持続性、乾性または湿性などさまざまであるが、咳関連QOLについては十分検討されていない。一方、胃食道逆流症 (GERD) はCOPDに合併することが少なくなく、COPD患者の咳嗽の原因が疾患自体かGERDによるものかの見極めは重要である。今回、安定期COPD患者における健康状態、咳関連QOL, GERD症状の関連について検討を加えた。

【対象と方法】対象は当院呼吸器内科に通院中の安定期COPD患者112例 (男性101例, 女性11例, 年齢中央値:73 (60-86) 歳)。受診時にCOPD Assessment Test (CAT:0-40点, 低値は良好), Leicester Cough Questionnaire (LCQ:3-21点, 高値は良好), Fスケール問診票 (0-48点, 8点以上をGERDと判定) を実施し, 患者背景, 各種検査との関連について検討した。

【結果】CATはmean 11.6 (0-32), LCQ total scoreはmean 18.92, < 21は68例 (60.7%), 各domainのmeanはphysical 6.23, psychological 6.25, social 6.44, Fスケールはmean 5.14 (0-34), ≥ 8 は25例 (22.3%) であった。CATはLCQ total scoreと有意な負の相関 ($r=-0.604$), LCQ total scoreはFスケールと有意な弱い負の相関 ($r=-0.379$), CATとFスケールは有意な正の相関 ($r=0.552$)を示した。

【考察】安定期COPD患者において, 健康状態, 咳関連QOLおよびGERD症状は相互に関連する。